

夕刊 警報

日七十月四年二七
（刊休日登日祭臘日）

今井邦子女史の近業

「和琴抄」を中心として

高田 忠夫

「歌集抄」の一文、今井邦子女史の宗教方面の所懐を述べた。短文ながら、最も傑出する童話と云ふべきであらう。私は、法然上人から親鸞上人の事蹟について色々聞かされた。種々の意味で神益せられたところが多かつた。次いで、今井女史に童話の方面のお作りのこと、私にこのたび「和琴抄」を始め知った。「おぼん」の「片目のソノモン」は「悪魔の霊」が「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。童話の方面に於いては、私も「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。童話の方面に於いては、私も「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。

警報

新妻 久満男 選

○七五三の祝の日 浦野伊那子
○化粧せし吾子の手を引きまよしの、高きさしひたのぼり
○すこやかに吾子の生命をのらすも御守り受けて心やすし
○めざれば基石の音のひびき来て、冷えまゝる夜は明けに近き
○夕されば女人夫婦野菜など、買ひあつめつ、歸り行くなり
○砂利運ぶ若き女はかなしかり、むらさきめし巻帯をして
○小舟 数人ある。短歌の正道を進んで、何れも素朴な格調の歌である。第二首の「おぼん」の「悪魔の霊」の歌は、無理である。下の句の「おぼん」の「悪魔の霊」の歌は、無理である。下の句の「おぼん」の「悪魔の霊」の歌は、無理である。

いはいの

並木 秋人

かうした意味で、私の童話の童話も直ちに「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。童話の方面に於いては、私も「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。童話の方面に於いては、私も「おぼん」の「悪魔の霊」の作品がそれである。

傲恙すてに久し

矢吹 正衛

落葉阿の温泉宿の庭の隅に、おぼんが居る。おぼんは、おぼんが居る。おぼんは、おぼんが居る。おぼんは、おぼんが居る。おぼんは、おぼんが居る。

神嘗祭

小野 務平

客中唯願加霜 佳節千門旭旌 天子萬年從古典 新永九穀供神嘗

橘の鈴

大堀 秀雄

白樺の林を通過して 歸つて来るのは、父さんの 町から お歸り 鈴が鳴る 雪も止み真白な道に 急いで来るのは、父さんの 櫓だ とも、速いな 鈴が鳴る 白樺のあの道ちか道 走つて来るのは、父さんの 櫓だ うれし、お歸り 鈴が鳴る 雪も止み真白な道に 急いで来るのは、父さんの 櫓だ

黄金魔乃

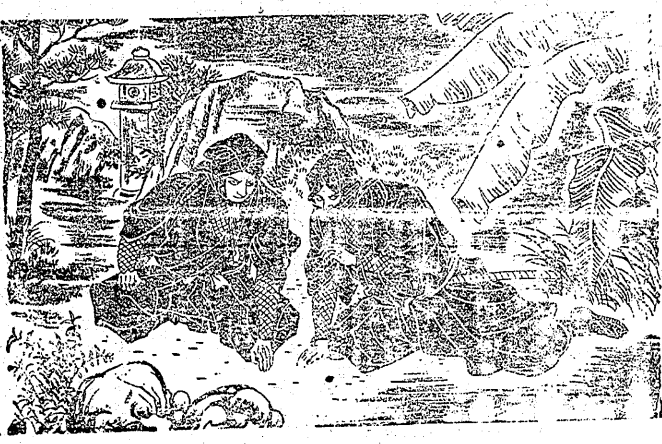
高桑 義生 作

お正月の歌留多の練習、そろそろ始めていこうとなつた

講談

黄金魔乃

五郎殿は、屋敷の者に引渡さげな大盗團の夜襲だ。五郎殿は、屋敷の者に引渡さげな大盗團の夜襲だ。五郎殿は、屋敷の者に引渡さげな大盗團の夜襲だ。



お正月の歌留多の練習、そろそろ始めていこうとなつた

さて東左衛門の命によつて、總指揮を承った飯島原屋の御座り。飯島原屋の御座り。飯島原屋の御座り。飯島原屋の御座り。飯島原屋の御座り。

サーピス自動車

新年御宴會

新年御宴會

松印	3.50	御會席七品付(外果物、御飯香物) 湯花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付(外果物、御飯香物) 湯花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付(外果物、御飯香物) 湯花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式

小瀧温泉 瀧乃湯旅館 電話103 割烹部

郡山脳病院

精神科 脳脊髄科 神経科

平製米

魚は原魚

和洋銅物 釜屋商店

良品廉賣に勝る商略なし

茶道裏千家 小原流

華道 盛花、瓶花

正確な眼鏡は 根本時計店

貴年筆 金銀高價買入

安齊外科醫院

近江屋

